

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372301046		
法人名	社会福祉法人 伸生紀		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	熊本県下益城郡美里町佐俣388		
自己評価作成日	令和2年10月5日	評価結果市町村受理日	令和3年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和3年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の出来る機能を最大限に発揮していただけるよう、調理・洗濯・レクリエーション等を通して活動を行っています。また、今年はコロナウイルス感染拡大防止の為、外出行事が出来ていないが、外出可能な時期は、四季折々の自然を感じていただいたり、外の空気を感じていただく為、いろんな所への外出をし、楽しんでいただいています。 テラスにて、野菜や花の栽培をし、ご利用者自らが、種まき、苗植え、水やりをし、実った野菜を収穫し夕食の食材として使用して美味しくいただき、ご利用者、職員共に喜びを感じています。  
ご利用者一人一人の性格、習慣等を把握し、その人に合わせて対応の仕方を工夫したりしています。グループホームこもれびは、ご利用者・職員の笑顔が絶えず、とてもアットホームな空間です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者にその人らしく、笑顔で過ごしてもらいたいと、一人ひとりの好きなこと・得意なことを探して、在宅の延長線のような暮らしができるよう、職員皆でチームケアに取り組んでいる。環境・排泄・食事・入浴・レクリエーション・広報など、職員の得意なことなどを活かしながら担当を決めており、職員それぞれが役割を持って業務を考え、毎月のミーティングで報告・提案し、共有している。また、法人全体で「4つのゼロ」に取り組んでおり、「おむつゼロ」の取組では、入居時は多くの方がリハビリパンツ使用であったものの、職員のこまめな支援によって現在は全員綿パンツ使用となっている。コロナ禍で外出できない中、入居者にできるだけ楽しんでもらう為にホーム内での行事を充実したり、面会ができない家族に配慮して「こもれび便り」の発行頻度を増やしたり、牛乳パックで和紙のハガキを作り、入居者に年賀状を書いてもらって家族に送るなど、様々な工夫を凝らした取組がみられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体としての理念は、毎日朝礼時に唱和を行い、意識したうえで介助に当たっている。また、グループホーム独自のケア目標も掲げ、職員がそれを意識して対応している。	職員で話し合い、法人の理念に沿ったグループホームの「ケア目標」を作成し、共有している。入居者がその人らしく笑顔で暮らせるよう、毎月1回のミーティングで、「この人にはこうした方がいいのではないか」と話し合い、チームケアを大切に、理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に、地区の区長さん、民生委員さんを招き、地域の行事への案内を頂き、参加をさせて頂いている。また、グループホームの行事の準備のお手伝いを依頼したり協力していただいている。(今年はコロナウイルスの観点から出来ていない。)	例年、どんどやや神社の夏祭りには準備から参加したり、傾聴ボランティアやフラダンス・大正琴のボランティアに来てもらったり、老人会と一緒にまんじゅう作りをするなど地域との交流を行っているが、現在はコロナ禍のため実施していない。	運営推進会議において、ホームの入居者が外を歩いているのを見かけた際は声をかけてホームに連絡してもらうよう依頼している。委員の協力を得て、さらに地域の見守り体制が広がっていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	離設の可能性のあるご利用者もおられる為、運営推進会議の中で、区長さん、民生委員さんに地域での見守りという観点から、職員と散歩中の本人様を見かけたら是非声をかけていただき、顔なじみの関係を作りたいということもお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中では、グループホームでの活動報告、事故報告、意見交換等を行っている。その中で出た意見は、参考にさせて頂き、今後の対応方法に活かしている。	今年度の運営推進会議は、コロナの影響で7月のみの開催となっている。会議では、事故報告・コロナウイルスへの対応・活動報告・意見交換等が行われている。	会議を中止した際は、委員に対してホームや入居者の状況を書面で報告し、意見・提案を得ることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所内で起きたことについて不明な点があれば、役場への相談をし、意見を求めている。また、運営推進会議に役場職員の出席もある為、その中で行政としての意見も頂いている。	町担当者とは、ホーム運営上の質問など気軽に電話で相談したり、提出物は直接持参して話をするなど、協力関係ができています。地域包括支援センターとは、待機者の情報など密に連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体として、身体的拘束適正化検討委員会の発足をしており、3か月に1回開催している。また、その間に身体拘束に当たるのではという事象が発生した場合には随時開催し、施設全体で考える場を設けている。	法人全体の身体的拘束適正化検討委員会には各事業所の管理者が委員となっており、拘束にあたるのではないかとと思われる事例について検討し、事業所に持ち帰って周知徹底している。「ちょっと待ってください」ではなく、「今、〇〇をしているので終わったら行きます」と伝えたり、荷物をまとめて出て行こうとする人にはお手伝いをお願いするなど、言葉かけや対応を工夫・検討し、職員のチームワークで拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○身体拘束をしないケアの実践 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体として、高齢者虐待防止については研修会を実施している。(今年度はコロナウイルスからの観点から研修会の実施は出来ていない。)ただ、日常のケアの中で不適切ケアを発見した場合には、本人への注意を促し、直ちに上長へ報告している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体として、研修会の実施をし、その中で知識の習得をしている。(今年度はコロナウイルスの観点から研修会の実施は出来ていない。)ただ、職員によっては制度に対する理解が出来ていない職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居日には契約について説明を行い、ご家族からも疑問点など質問をいただく機会を設けている。また、入居後も不明な点等いつでも話せるような言葉かけを行い、安心して入居していただけるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には入居時に、意見や要望があればいつでもご相談いただけるようお伝えしている。ご意見を頂いた場合は早急に検討し、グループホームで対応できる範囲での対応方法をお伝えしている。	今年度は面会も制限され、家族にホームの状況をこれまで以上に伝えるため、2ヶ月に1回発行していた「こもれび便り」を毎月発行し送付している。また、体調や受診時の報告など、折に触れ電話で家族とやり取りをしているが、意見・要望等はほとんど聞かれていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員から、こうしてはどうかとの意見があった際は、常に職員全員で検討し、必要であれば取り入れている。月に1回部署ミーティングを開催し、誰もが意見を言える場を設けている。	環境・排泄・食事・入浴・レクリエーション・広報など、職員の得意なことなどを活かしながら担当を決めており、職員それぞれが役割を持って考え、毎月のミーティングで報告や提案をしている。また、「4つのゼロ」や入居者一人ひとりへのより良いケアについての提案も活発に出されており、まずは1週間ほど試してみるなど、職員意見を反映し、共有してケアにあたっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間については総務にて対応している為、事業所ではわからないが、職員が自分の思っていることを言えるような環境づくりを行っている。また、職員が努力している事などを見るときには認め、少しでもやりがいを感じてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、様々な研修会への参加は出来ていないが、その職員の力量を把握し、その人に合った研修会への参加の促し、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会宇城ブロック会の開催が2カ月に1回開催される為、管理者は出席している。その中で情報交換、意見交換等を行っている。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止となっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階で、本人様の不安に思っていること、痛みがあるところ、どんなことをしていきたいか等をお聞きし、ケアプランに落とし込み、ケアの中で実践していけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に、ご利用者にどのような生活を送っていただきたいか等の要望をお聞きしている。また、入居に当たり不安に思っておられることなどもお聞きし、安心されるよう声掛けを行っている。入居後もいつでも要望・意見を言えるような環境づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に当たり、本人様、ご家族が何を必要とされているかお聞きし、入居後対応出来るようにしている。また、入居後これは必要ではないかと思うことがあれば、ご家族へ相談し多職種と連携し支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される立場としては捉えず、職員と一緒に、草花の手入れをしたり、洗濯物をたたんでいただいたり、調理を楽しんだりと様々な活動を通し、共に楽しみながら生活していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態報告は、こまめに行い、ご家族からの要望や意見等あれば、その都度出来る範囲での対応をしている。現在面会がリモートのみとなっている為なかなか接触できておられないが、新聞の発行回数を増やし、少しでもご家族にご利用者の様子が分かるように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナの影響でなかなか動きが取れない状況だが、普段は、馴染みの方が他部署におられる時はに会いにお連れしたり、外出し、以前暮らしておられた地域へのドライブをしたりする機会を設けている。	従来、デイサービスに地域の方が来られている時に参加したり、自宅方面にドライブしたり、地域に買い物に出かけるなど、馴染みの人や場との関係継続支援に努めているが、コロナ禍の現在は外出を控えている。今年のお正月は、管理者が牛乳パックで作った和紙をハガキにして、入居者に年賀状を書いてもらい、家族に送って大変喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人一人の性格を把握し、席の配置を考え、ご利用者同士楽しく過ごしていけるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、特養への入居や、医療機関への入院等の場合、ご家族へ了承を得て、各担当者への情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の得意だった事、好まれていたこと等をお聞きし、出来るだけ生活の中で発揮していただけるような取り組みを行っている。また、本人様からの聞き取りが困難な場合には、ご家族へ聞き取りを行い、少しでも本人様らしい生活が出来るよう取り組んでいる。	希望や意向をあまり言われない方には、家族からの聞き取りの他、いろいろな事をやってみてもらって得意なことを探している。できることがあまりないという情報の方も、やってみようと能力を発揮されることもあり、気づきは口頭や日々のケース記録で共有している。調理を手伝う人、新聞を熱心に読む人、畑仕事で得意な人など、それぞれが好きな事・得意な事を継続して行えるよう、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況を、担当ケアマネジャーやご家族から聞き取りを行い、把握し、入居後もその人らしい生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅の場合は、1日の過ごし方、性格面、どんなことを好まれてされていたか等の把握を行い、入居後も本人様らしく過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の担当職員を中心に、その人にあつたケアを実践出来るよう部署ミーティング等を利用し検討している。また、他部署の専門職への助言を求め実践に活かしている。	プラン作成にあたっては、まず担当者が見た本人の状況をアセスメントシートに記入し、計画作成担当者の情報と合わせ、ミーティングで検討している。パットの大きさを見直す際など、あらかじめプランに入れて家族の同意を得ている。その人にとって今、最も必要と思われることをプランの一番に組み込んでおり、最初のプランではまずホームに慣れてもらうよう、居場所・役割を見つけることを大切にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人一人の記録を行っている。いつもとは違うことがあったり、やってみたらよかつた事などを記録に残し、申し送りの時間を活用し、他職員への情報共有を行っている。その情報をもとに、ケアプランの見直しや更新時に追加したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人、生活歴も違えば性格等も違うため、その人に合ったケアが実践できるよう、職員間でアイデアを出し合い、自分達の出来る範囲で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人のご利用者に関して、近くに親戚がおられる為、そちらの方には声掛けをし、本人様が散歩されている時には声掛け等を依頼している。また、地域の行事への参加をさせて頂いたり、昔からある地域行事を地域住民とともに楽しませていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、こもれびの嘱託医の石井クリニックの往診をお勧めしている。但し、ご家族での対応が可能であれば、今まで通りのかかりつけ医への受診も出来る事をお伝えしている。緊急時は職員にて対応させていただいている。受診時、ご家族が対応される場合は、グループホームでの状態をお伝えし、的確に診断していただけるようにしている。	入居前のかかりつけ医に家族同行での受診の方が3名、往診対応の方が6名と、本人・家族の希望に応じた対応をしている。緊急時は特養の嘱託医に一報を入れ、夜間帯は管理者に連絡し、必要に応じ救急搬送している。週1回、訪問看護師の健康観察を受けている。	緊急時や夜間帯にも、確実に医師の指示を受けて対応できる体制があると、本人・家族や職員の安心に繋がると思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師が来所される為、ご利用者の状態報告を行っている。また、日々の中でご利用者に変化があるときには、併設のデイサービスや特養看護師へ報告し、状態をみていただき、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人様が安心して治療を受けられるよう、病院への情報提供を行っている。また、各病院の相談員との連携を図り、早期退院が出来るよう調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様の状態を見ながら、医師の説明の元、ご家族と今後の方向性について、こまめに連絡を取り合っている。終末期や重度化した場合、ご家族が安心してして頂けるよう対応している。	本人・家族からの看取りの希望があり、主治医・訪問看護等の協力体制が取れば看取りをすることも可能であるが、看取り対応ができない主治医もあり、終末期はほとんどが特養や医療機関への搬送となっている。	看取りの取り組みに関して重要な、職員の意思統一・医療機関等との連携・職員体制の整備・看取りの研修などについて、職員全員で再確認することも期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、併設事業所の看護職へ連絡し、指示を仰ぐ。夜間帯は職員が1人の為、宿直者へ連絡し救急搬送にて対応している。事故発生時の対応についても、併設事業所の看護師の指示を仰いでいる。ご家族にも早急に連絡を入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年に2回避難訓練を実施している。また、災害時の対応について、施設内の研修にて学んでいる。いざというときにきちんと対応出来るよう、今後も定期的に訓練を実施していきたい。	年2回、消防署の協力を得て夜間・昼間想定での火災避難訓練を実施している。近隣の方にも入居者を見守ってもらえるよう、訓練への案内を出している。災害時に備え、食料や備品の備蓄を整備している。	火災以外の災害も含め、同一敷地内の施設全体の協力体制の構築と避難訓練の実施が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ使用時は扉を閉め、プライバシーの保護に努めている。ただ、転倒のリスクが高い利用者に関しては、数センチ扉を開け、さりげない見守りにて対応している。また、プライドの高いご利用者もおられる為、本人様を尊重するような声掛けを心掛けている。	トイレ使用時はドアを閉めたり、入浴時の衣服の着脱の際はタオルを掛け、羞恥心に配慮している。お手伝いを依頼する時などはできることを把握しながら声掛けし、手伝ってもらった時はお礼を伝えるなど、入居者を尊重し、誇りを持てるような言葉かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望を発言できるご利用者は少ないが、本人様に伝わりやすいよう個別にお聞きしたり、選択肢を与えるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者それぞれの生活スタイルが違うため、一人一人に合ったペースで過ごして頂けるよう状態を見ながら促している。野菜・花の手入れ、調理、洗濯等ご利用者が自宅におられたときにされていたことをやりがいを感じてして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、洗顔・整髪を促している。出来ない方に関しては職員にて対応している。また、男性ご利用者に関しては、口腔ケア時を利用して髭剃りを行っている。衣類に関してもご自分で選択していただけるよう、好みをおききしながら選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階から、ご利用者に食材切りを依頼し、注ぎ分けもご利用者にして頂いている。時には、昔ながらの煮しめ作りや、だご汁づくりなどもご利用者と一緒に楽しみながら行っている。	昼食は法人の厨房で作り、朝・夕食は管理栄養士が立てた献立に沿ってホームで調理している。入居者も一緒に食材切りや盛り付けを行っており、コロナ禍以前は食材の買い物も一緒に出掛けていた。季節の行事食や、お花見にはお花見弁当、誕生日は入居者希望のメニューでお祝い、時には煮しめや饅頭を一緒につくるなど、食を楽しむ工夫も多く見られた。	職員1名は入居者と同じ食事を摂っているが記録は取られていない。美味しい・辛い・硬いなど食事の感想等の記録を残すことで、さらに美味しい食事に繋がっていくと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握を行っている。食事量が少ない方には、高カロリーゼリーの提供をしたり、ご飯よりパンを好まれる方にはパンを提供したりしている。また、水分の入りが悪い方には、ゼリーやアイスクリームなど好まれるもので代用している。本人様が苦にされないような提供を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分で出来る方には自力での歯磨き・義歯洗浄・うがいを声掛けし促している。自力で困難な方には職員にて介助している。また、3名の方は週に1回、専門の口腔ケアを受け、清潔に保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設全体としておむつゼロの取り組みをしており、全ご利用者、おむつ使用せず綿パンツ、又は綿パンツにパットにて過ごされている。一人一人の排泄パターンを把握し、訴えない方に関しては定時での誘導を行い、その都度排尿量・パットの確認を行っている。	法人全体で「オムツゼロ」を掲げており、排泄パターンや定時での誘導で、日中は全員トイレ使用、夜間もパット交換の方が1名のみで、他の方はトイレかポータブルトイレ使用である。入居時は多くの方がリハビリパンツであったが、現在は全員綿パンツ使用で、コスト削減にもなり、褥瘡にもなりにくいなど、家族にも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族より、なるべく薬を使わずに排便コントロールをしたいという希望があり、グループホームで考え、牛乳にミキプルーンと食物繊維を混ぜたものを提供している。その方は、飲用日の午後からスムーズな排便に繋がることが多く効果的。また、この飲み物を飲んでも効果がないご利用者は、排便-3日目でラキソベロン2錠の与薬指示があり対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人の利用者が、夜に入りたいとの希望をされたが、夜は職員が少ない為、16時半からでもいいか声掛け行くと、そのくらいならいと納得された。そのため、その方に関しては夕方入浴にて対応している。また、入浴拒否がある方に関しては、無理強いはせず、時間をおいての声掛けや、日にちをずらしての対応をしている。	お湯は近くの温泉からひいたお風呂で、週2～3回入浴している。機械の設置でほぼ全員が浴槽に浸かることができる。マンツーマンでのんびり話を楽しむ人や、早く上がりたいという人など、個々に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間も、本人様に何時に寝たいかお聞きし、気持ちよく入眠出来るようにしている。また、必要な方には定期的に体位変換の介助も実施し褥瘡予防に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容までは理解できていない職員もいるが、与薬間違いが無いよう、指差し、声出し確認を実施している。また、薬が変更になった際には、本人様の状態の変化がないか様子観察の強化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物を好まれる方には、編み物の提供を、調理を好まれるご利用者のは料理の提供を、土いじりを好まれるご利用者には草花の手入れの提供を行ったりと、ご利用者一人一人が得意な部分を活かせるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外の空気を吸いたいと言われる方がいらっしゃれば、散歩に出かけている。現在はコロナの影響で外出行事が全く出来ていないが、通常は年に数回、季節ごとに外出行事を取り入れている。その中で、地域の方へ応援を依頼したり、ご家族にも案内を出し、希望される方は一緒に参加していただけるようにしている。	従来は家族や地域の方にも協力を依頼して、花見や紅葉狩りなどの季節の外出をしたり、おやつを食べに喫茶店に行ったり買い物に出かけたりしていたが、コロナ禍の現在は、敷地内の散歩で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設全体として、トラブル等を考慮してお金の持ち込みを禁止している。ただ、行事や買い物等でお金が必要な時は、預り金から一人1000円程度お小遣いを所持し、事由に使えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から電話や手紙を書かれることはないが、ご家族から本人様宛に電話や手紙が届く場合がある。その時は、直接本人様に繋ぎ、会話を楽しんでいただいている。手紙に関しても、職員では封を切らず、ご本人に声掛けをし開けていただいている。読んでと依頼される時には代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの整理整頓を心掛けている。また、排泄臭がしないよう、汚物の処理はその都度行っている。また、花を飾ったり心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関を入ると、リビング・キッチン・食堂と、広い共用スペース全体を見渡すことが出来、天井は高くゆったりと開放的である。壁には、入居者の日常の写真・それぞれ新年の願い事を書いた絵馬や、「ケア目標」・職員同士でありがとうの気持ちをメモで伝える「ありがとうの木」などが掲示されている。ソファに座ってテレビを見たり、新聞を読んだり、談笑したり、自由に寛ぐ笑顔の入居者の様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングを分けており、本人様が自分でどこにいたいか選んでいただけるようにしている。ソファにて過ごされる時は、気の合う方同士が隣になるように席を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、居室は本人様に馴染みのあるものを持ち込み可能とお伝えしている。それぞれ、本人様が過ごしやすいような配置にし、自分の部屋のように、心地よく過ごして頂いている。	各部屋には洗面所が設置されており、ダンス・衣装掛け・椅子・鏡台などを思い思いに持ちこみ配置している。壁やダンスの上には、家族の写真・カレンダー・職員からの感謝状などが飾られ、それぞれに居心地の良い部屋作りがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が歩行される通路には、物を置かないようにしたり、濡れていないか確認したり、安全に歩行出来る様になっている。また、途中でソファを設置し、いつでも休憩できるようにしている。自分でトイレに行かれる方の為に、トイレにはわかりやすく表示をしている。		